

## 別記第5号様式

## 被害防止計画目標評価報告書

## 1. 対象地域及び実施期間

対象地域	阿武荻地域
実施期間	令和2年度～令和5年度（再評価）

## 2. 被害防止計画目標の達成状況

被害防止計画目標	基準年（年度）の実績値（A）	目標値（B）	目標年（年度）の実績値（C）	達成率（%） $A - C / A - B$	備考
イノシシ（被害額）	27,900	19,530	14,146	164	（千円）
イノシシ（被害面積）	22.22	15.55	12.35	148	（ha）
サル（被害額）	13,137	9,195	10,566	65	
サル（被害面積）	10.92	7.64	7.91	92	
シカ（被害額）	323	226	3,904	-3,692	
シカ（被害面積）	0.20	0.14	3.32	-5,200	
タヌキ（被害額）	418	292	888	-373	
タヌキ（被害面積）	0.20	0.14	0.11	150	
ノウサギ（被害額）	2,409	1,686	608	249	
ノウサギ（被害面積）	1.52	1.06	3.19	-363	
アライグマ（被害額）	3,120	2,184	2,565	59	
アライグマ（被害面積）	0.94	0.65	1.28	-118	
ヌートリア（被害額）	126	88	2,125	-5,261	
ヌートリア（被害面積）	0.10	0.07	1.63	-5,090	
アナグマ（被害額）	2,002	1,401	236	294	
アナグマ（被害面積）	0.55	0.38	0.06	289	
カラス（被害額）	4,567	3,196	9,807	-382	
カラス（被害面積）	1.87	1.30	2.04	-29	
ヒヨドリ（被害額）	1,340	938	927	103	
ヒヨドリ（被害面積）	0.22	0.15	0.31	-130	
スズメ（被害額）	1,055	738	232	260	
スズメ（被害面積）	0.92	0.64	0.18	264	
ハト類（被害額）	30	21	55	-278	
ハト類（被害面積）	0.08	0.05	0.96	-2,933	
カモ類（被害額）	6	4	104	-4,894	
カモ類（被害面積）	0.01	0.01	0.03	0	
サギ類（被害額）	3,219	2,253	2,262	99	
サギ類（被害面積）	2.56	1.79	1.76	104	
カワウ（被害額）	262	183	0	332	
カワウ（被害面積）	0.30	0.21	0	333	
合計（被害額）	59,914	41,935	48,425	64	
合計（被害面積）	42.61	29.78	35.13	58	

3. 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業内容	事業量	管理主体	供用開始日	事業効果
有害捕獲、被害防除、緊急捕獲、有害鳥獣侵入防止柵	サル用大型囲いわな 2 基、小型箱わな 20 基、カワウ・サギの追い払い活動 3 河川、緩衝帯整備 1 箇所、スマートわな導入親機 1 台・子機 20 台、緊急捕獲頭数 911 頭、柵 40,855m	萩阿武地域鳥獣被害防止対策協議会	令和 2 年 4 月	柵設置農地における被害軽減、捕獲頭数の増加
有害捕獲、被害防除、緊急捕獲、有害鳥獣侵入防止柵	サル用大型囲いわな 2 基、イノシシ用大型箱わな 8 基分、小型箱わな 18 基、カワウ・サギの追い払い活動 3 河川、緩衝帯整備 1 箇所、緊急捕獲頭数 976 頭、獲柵 29,520m	萩阿武地域鳥獣被害防止対策協議会	令和 3 年 4 月	柵設置農地における被害軽減、捕獲頭数の増加
有害捕獲、被害防除、緊急捕獲、有害鳥獣侵入防止柵	サル用大型囲いわな 1 基、カワウ・サギの追い払い活動 3 河川、緊急捕獲頭数 1,178 頭、柵 24,428m	萩阿武地域鳥獣被害防止対策協議会	令和 4 年 4 月	柵設置農地における被害軽減、捕獲頭数の増加
有害捕獲、被害防除、生息環境管理、緊急捕獲、有害鳥獣侵入防止柵	サル用大型囲いわな 2 基、イノシシ用捕獲檻 28 基、カワウ・サギの追い払い活動 3 河川、センサーカメラ 4 基、緩衝帯整備 1 地区、緊	萩阿武地域鳥獣被害防止対策協議会	令和 5 年 4 月	柵設置農地における被害軽減、捕獲檻整備による捕獲個体数の増加

	急捕獲頭数 72 5頭、柵 84,7 44m			
--	------------------------------	--	--	--

#### 4. 総合評価

令和2年度を始期として、令和4年度を最終目標に数値を設定したが、期間を1年延長し、再評価を行った。侵入防止柵を設置した農地では確実にその効果が見られるが、未整備農地へ被害が集中する傾向があるため、今後は捕獲の更なる強化と未整備農地への柵設置が急務となる。また、サル用大型囲いわなの設置により加害群の効率的な捕獲も実施しており、サル被害の更なる軽減が見込まれる。

シカ・特定外来生物の生息域の拡大及び個体数の増加により、被害額・面積共に大幅に増加している。シカについては、シカ用侵入防止柵の整備を実施し、早急に被害防止対策を行う必要がある。特定外来生物については、猟友会各分区に捕獲檻を配布し、捕獲体制を強化する。

#### 5. 第三者の意見

萩市・阿武町では、イノシシ・サル・カラスの被害が多く、その中でもイノシシ・サル被害が深刻な状況にあります。イノシシ・サルについては、侵入防止柵等の施設整備を計画的に実施し、個体数管理も効果的捕獲を行っていることから、一定の効果が出ています。

しかしながら、主にシカ及びヌートリアの被害が増加したことにより、被害防止計画の全体目標値を達成できていません。この原因には、生息域が拡大してこれまで出役のなかった地域に被害が広がるとともに、農家の対策が後手になったことが問題と考えられます。今後は、被害が新たに発生する可能性が高い地域を中心に、被害対策として、防護対策・捕獲対策・生息地管理の3つを総合的に進める指導を行う必要があると考えます。

防護対策の侵入防止柵の整備と有害鳥獣捕獲については、鳥獣被害防止総合対策交付金事業により実施していますが、より効果的な成果を得るために、現状把握を行いながら農家と連携して「地域ぐるみ活動対策プラン」を作成し、集落全体での被害対策を進めていただきたい。

なお、シカ・ヌートリアの被害が増えてきていますが、シカについては被害が報告された地域において防護対策と捕獲対策に力を入れ、ヌートリアなどの特定外来生物の被害では捕獲対策を積極的に進めるようお願いします。

- (注) 1 被害防止計画目標の達成状況が低調である場合は、改善計画を作成し、知事に提出すること。
- 2 3の事業効果には、別添様式を参考に事業の実施により発現した効果を幅広く定量的に記入すること。なお、処理加工施設や捕獲技術高度化施設を整備した場合は、当該施設の利用率も記入すること。
- 3 4の総合評価のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由も記入すること。
- 4 鳥獣被害防止施設の整備を行った場合には、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況並びに侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。